



なくして気づく税の力

大田区立六郷中学校 三年 平林 百華

私が税について考えたとき、思い浮かんだのは、消費税だけだった。また、大人たちが「税金は高い」と話しているのを耳にしたこともある。税金がなければ生活が楽になる。そんなふうに考える大人の気持ちも、当時の私は理解できる気がしていた。だからこそ、税金を払う意味を深く考えたことがなかった。

しかし、あるとき教科書や学校のエアコンの設置費が税金でまかなわれていることを知った。税金の役割を考えるきっかけとなった出来事である。

「税金がなくなったら、どうなるのだろう」そう思った私は、身近な場面からその影響を想像し始めた。

まず考えたのは、冒頭でも話題にした学校に関することだった。税金がなければ、教科書は配られず、教室にはエアコンがつかない。快適な環境で授業を受けることはできなくなる。さらに深刻なのは、先生たちの給料が支払われなくなり、勉強を教えてくれる人がいなくなってしまうことだ。教育を受けられない社会は、きっと私たちにとってすごく不自由なものだろう。

次に思い浮かんだのは、医療と保険制度だ。これらは、未成年である私たちにとっても非常に身近なものである。もし税金がなくなれば、風邪をひいて病院に行くだけでも、高額な費用を支払わなければならないことになる。また、医療費の負担は大人にとっても生活に大きな影響を与えることとなるだろう。

医療だけではない。もし大規模な災害が発生したらどうなるだろうか。考えた途端、鳥肌が立った。地震や台風が起きた際に避難する場所がなく、街に人が溢れかえる。さらに、復興のための資金も足りず、被災地は長い間荒れ果てたままになる事が想像できる。このような被害を防ぐために税金の存在があり、非常時に国民を守るという大きな役割を果たしていることを実感した。

そしてもう一つ重要だと思うのは、税金が「社会の平等」を保っているという点である。税金がなければ、教育や医療などの制度はお金のあふる人々しか受けられないものになってしまう。つまり、税金は誰もが同じようにサービスを受けられるための「仕組み」となっている。税金は、社会の一員として私たち全員が少しずつ協力することで成り立つと言えるのではないか。

これらのことから私は、税金とはただ払わなくてはならないお金ではなく、社会全体を支える「大切な資金」だと思えるようになった。税金があるからこそ、私たちは安心して生活を送ることができている。

「税金がなくなったら」と不安になる未来を避けるためにも、私はこの学びを大切に、将来きちんと税を納める大人になりたい。そして、

私たちが納める税金が、より良い社会を築く力となるような国であってほしいと願っている。